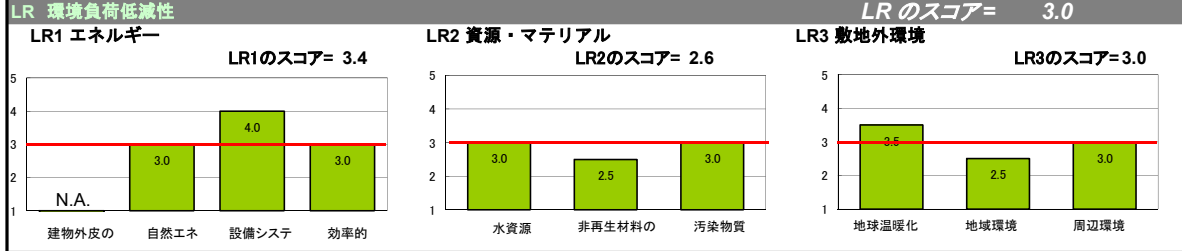
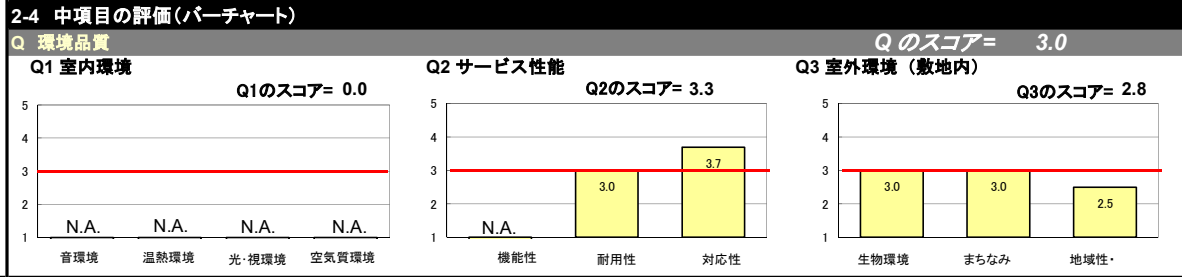
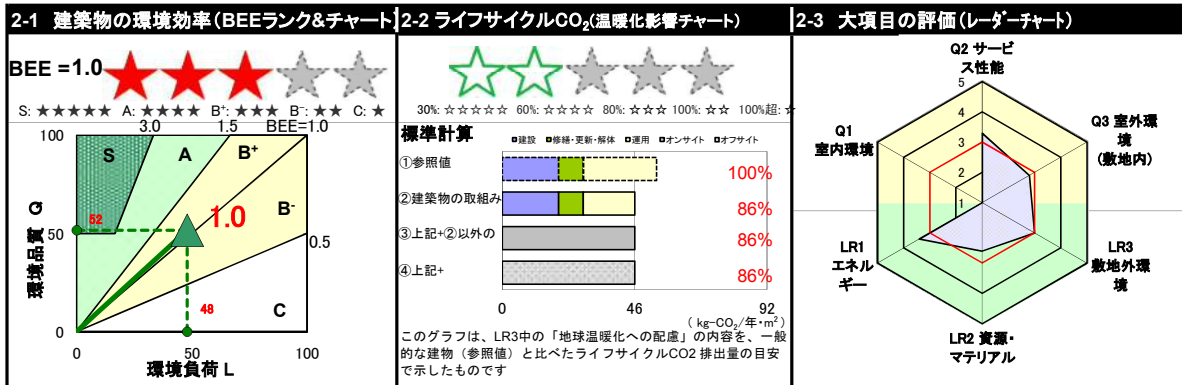




1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	イノアック八名第2工場	階数	地上2階		
建設地	愛知県新城市黒田字草場48-3の1	構造	S造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	250 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年6月20日		
敷地面積	86,419 m ²	作成者	榑福田組 木村		
建築面積	11,600 m ²	確認日	2019年6月20日		
延床面積	17,505 m ²	確認者	榑福田組 須田		



3 重点項目


<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p> 	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> 	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$


 みんなの環境活動を応援しています
 2019年 7月 30日

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質																
Q1 室内環境																
1 音環境																
1.1 室内騒音レベル																
1.2 遮音																
1 開口部遮音性能																
2 界壁遮音性能																
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																
1.3 吸音																
2 温熱環境																
2.1 室温制御																
1 室温																
2 外皮性能																
3 ソーン別制御性																
2.2 湿度制御																
2.3 空調方式																
3 光・視環境																
3.1 昼光利用																
1 昼光率																
2 方位別開口																
3 昼光利用設備																
3.2 グレア対策																
1 昼光制御																
3.3 照度																
3.4 照明制御																
4 空気質環境																
4.1 発生源対策																
1 化学汚染物質																
4.2 換気																
1 換気量																
2 自然換気性能																
3 取り入れ外気への配慮																
4.3 運用管理																
1 CO ₂ の監視																
2 喫煙の制御																
Q2 サービス性能																
1 機能性																
1.1 機能性・使いやすさ																
1 広さ・収納性																
2 高度情報通信設備対応																
3 バリアフリー計画																
1.2 心理性・快適性																
1 広さ感・景観 (天井高)																
2 リフレッシュスペース																
3 内装計画																
1.3 維持管理																
1 維持管理に配慮した設計																
2 維持管理用機能の確保																
2 耐用性・信頼性																
2.1 耐震・免震・制震・制振																
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																
2 免震・制震・制振性能																
2.2 部品・部材の耐用年数																
1 躯体材料の耐用年数																
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																
6 主要設備機器の更新必要間隔																
2.4 信頼性																
1 空調・換気設備																
2 給排水・衛生設備																
3 電気設備																
4 機械・配管支持方法																
5 通信・情報設備																
② 集中管理運転システムを持たない ② 主要な用途2種以上にB以上(VP)を使用しEは不使用																

3 対応性・更新性				3.7	0.48			-	3.7
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			事務所 4.0m 工場2階 6.8m	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			(210*2+48*2+3.5*8+(4.37*2+4.42)(EV))/(11582.59(1F)-19.32(EV))	5.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.2	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			電気・設備用に予備室を備えている	4.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.0
LR1 エネルギー					0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI = 0.7	3.0	0.43				4.0
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				-
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				-
集合住宅の評価					-				-
4.1 モニタリング					-				-
4.2 運用管理体制					-				-
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.6
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水				3.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63				2.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.25				-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				-
1 消火剤					-				-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				-
3 冷媒				3.0	0.50				-
LR3 敷地外環境					0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:86%	3.5	0.33				3.5
2 地域環境への配慮				2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				-
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				-
1 騒音		独自		3.0	1.00				-
2 振動		独自			-				-
3 悪臭					-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				-
1 風害の抑制				3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-				-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

イノアック八名第2工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	設備システムの効率化を図り、将来的な変化にも対応できる長寿命な建築物を目指す。
Q1 室内環境	評価対象外となる。
Q2 サービス性能	将来的な可変性の向上を目指す。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の緑化に努め、高木および中低木の配置にも配慮している。
LR1 エネルギー	設備システムの効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	特になし
LR3 敷地外環境	特になし
その他	評価外となっている事務所部分についても、断熱材を設け環境の向上に努めている。